

あじさい



第 121 号

2024 年 6 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



1. はじめに

皆さんご存じのように、三重県中南勢地域で越冬するコクガンは日本ではほぼ南限域であり、近年ではここ宮川河口（大湊側）で毎シーズン 10 羽前後越冬します。今回は宮川河口で越冬するコクガンにスポットを当て、11 月下旬から 4 月中旬まで主に早朝時だけですが、ほとんど毎日観察に行きましたので、その生態を紹介したいと思います。

コクガンと言えば、2017～18 年（冬）までは雲出川河口～五主海岸で越冬していました。ところが、2018 年 12 月からは、なぜか宮川河口に移動し、それ以来毎年宮川河口で越冬するようになりました。以降私が担当するガンカモ調査時の数として、2019 年 1 月が 12 羽、2020 年が 5 羽、2021 年が 8 羽、2022 年が 14 羽、2023 年が 8 羽と 10 羽前後で推移しています。私が確認した宮川河口での最大数は 2022 年 1 月 3 日の 24 羽です。

2. 今シーズンのコクガン

さて今シーズン（2023 年秋から 2024 年春まで）は津市の今井光昌さんの情報によれば、2023 年 11 月 4 日雲出川河口に早々 1 羽が飛来し、12 月 9 日までは 3 羽であったが、12 月 10 日には 6 羽、12 日には 8 羽、16 日には 12 羽と順調に数を増やし、このまま今シーズンは雲出川河口に定着するのかと思っていました。その頃、宮川河口は例年より、カモも少なく、コクガンの好物であるアオサやアマモも少ないようなので、今シーズンはもうこちらには来ないだろうと思っていただけです。

ところが 12 月 16 日に 1 羽飛来したのを皮切りに、20 日は 6 羽、22 日は 9 羽に増え、26 日には 13 羽となり、ちょうど同じ頃、今井さんの情報によれば、雲出川河口では姿を見せなくなったので、宮川河口のほうに移動してきたと思われます。その後は宮川河口に毎日飛来するようになり、やはり今シーズンも宮川河口で最大 14 羽が越冬することになりました。

目次

宮川河口のコクガン観察記	2
表紙の言葉	2
鳥の換羽（連載第 3 回）繁殖前換羽と夏羽	6
事務局だより	9
三重で観察できるムシクイ類の識別と キマユムシクイの同定	10
野鳥記録	12
探鳥会予告 2024 年 6 月～9 月	16
おしらせ 総会を開きます。	16
理事会報告	17
チュウヒサミットを開催します。	17
探鳥会報告（2024 年 1 月～2024 年 3 月）	18
編集後記	20

表紙の言葉

アオバト

名張市 田中 豊成

何といても、緑色の体が魅力的だと思います。また、肩辺りの赤紫色が有る無しで、雄と雌がはっきりと分かります。山道を歩いていると、アオーアオーの音が遠くから鳴くので姿は見えずとも、その存在が分かります。伊賀地方では、冬季上野城公園で毎年 30 羽ほど越冬をしていましたが、10 年程前から落ち葉や枯草の整理で園内はすっきりとしましたが、アオバトやトラツグミなどがいなくなり残念です。

5 月位の山では、山桜のサクランボを集団で食べるのを見ることがありますね。きっと、色んな果実が好みなのでしょう。青山高原で、夏に 2 羽が飛んでいるのを見たことがあります、恐らく、繁殖をしていると思います。割合に近くにいるけど、なかなか姿が見られないが好きな鳥の一つです。

3. コクガンの飛来

コクガンの宮川河口での様子を紹介しますと、夜中は湾内の海上でネグラをとっているようで、日の出前後に、東方面の二見沖（大湊から見ると答志島方向）のほうから、一直線の低空飛行で飛来し、河口先端部に着水します。コクガンは当初雲出川河口にいたこともあり、飛来は北方面（明和・松阪沖）から来るものと思っていましたので意外でした。ネグラ立ちは日の出前の明るさに反応しているのか、まだ暗い1月上旬は午前7時頃、明るくなる3月上旬になると、午前6時頃に河口に飛来してきます。14羽がまとまって飛来することはほとんどなく、だいたい2羽～4羽のグループ（家族単位？）が、その日によっての組み合わせで7羽だったり、10羽だったり、日々飛来する数は異なります。今シーズンは明らかな幼鳥や若鳥はいなくて、白い首輪がはっきりしている成鳥ばかりなので、家族単位のグループかどうか判断が付きませんでした。

4. コクガンの1日

その日の主な行動パターンですが、河口に飛来すると、海上にいるのも束の間で、砂州に上陸して、まずは毛繕いします。毛繕いはかな



図1 13羽のコクガンが東方沖から飛来する。



図2 朝焼けとコクガン（日の出と同時にやってくる）



図3 水浴びしているコクガン

り入念に30分以上時間をかけ、さらに汽水域での水浴びを好むのか、浜辺で水浴びを頻繁にします。毛繕いなどが一段落すると、砂州に打ちあがっている海藻を食べたり、海に戻って海藻を食べたりしますが、こうした一連の行動はすべてグループ単位で動き、グループ間で牽制しあったりもします。しばらくはこのような行動を繰り返しますが、1日中河口周辺に滞在することは少なく、2～3時間で外洋へ飛んでいくこともしばしばです。午後には戻ってくることもあり、ネグラへ帰るといふより、おそらく近郊の海域にい



図4 飛んでいるときは口を開けて舌を出していることがある

るか思います。ただ特に穏やかな日には、砂州の砂場に座ったり、嘴を羽に入れて片足で寝ていたり、砂州の上でゆったり過ごす時間が多いので、この様子を見ると、おそらく宮川河口で越冬する理由の一つに安全な砂州があるということが考えられます。

朝は風雨の強い悪天候でも一定の時間に必ず何羽か飛来するので、規則性はあると言えます。ではネグラに帰る時間に規則性があるかという点、日によってランダムで、これは最後までわかりませんでした。ただ言えることは日没近くまでいても、河口付近では絶対ネグラをとらず、必ず沖のほうに移動するということが確認しています。比較的天候が安定している満潮時のパターンとしては、だ



図5 好物のアオサを食べている



図6 助走をつけて飛び出していく

いたい午後2時から4時くらいの間に帰路につきます。そして飛来時と同じく、グループ単位で東方向へと一直線の低空飛行で飛び去っていきます。

5. コクガンの北帰行

3月に入ると北帰行が始まったのか14羽いたコクガンは10羽となり、そのグループ構成が4羽、3羽、2羽、単独の1羽ということが判明しました。この単位での組み合わせで飛来したり、飛び去ったりします。昨シーズンの宮川河口のコクガンは2022年11月27日に2羽初認、越冬最大9羽で、終認が2023年3月12日の2羽だったので、3月10日を過ぎるころには、そろそろお別れかなと思いつつ、3月中旬を過ぎても毎日やってくるコクガンに

今シーズンは滞在の最長記録になるかもと期待しました。よほど三重の海がお気に入りなのか、4月に入ってカモが少なくなってきても、なお8羽が滞在し、結局4月10日に5羽となり、14日の早朝に2羽を確認したのが最後となりました。今シーズンは雲出川河口での初認から、宮川河口での終認まで5か月以上、三重県中南勢地域に滞在したことになります。もちろん私の知る限り、越冬の最長記録になるかと思います。



図7 東方沖のネグラへと帰っていく



図8 毛繕いは入念に、1時間くらいしていることも

6. おわりに

毎シーズン、数こそ少ないですが、三重県中南勢地域でコクガンが見られるのは本当に貴重です。できればもっと数多くのコクガンが越冬し、今後もずっと続いてほしいと願っています。



図9 コクガンとハウロクシギ